

広報 市民リポーター だより

②

今回は、長岐リポーターが牛乳パックを回収している市内のお店を訪ねてその回収状況を、加藤リポーターは市で七月一日からスタートしたすこやか子育て支援事業について、リポートしました。

牛乳パックの回収について

リポーター 長岐 美弥子(清水1丁目)

牛乳パックは、そのほとんどが北米で伐採された杉の幹以外の部分を利用して上質のプルプからつくられています。その牛乳パックを使い捨ててしまうのはもったいないというところで、市内でもいづく、ジャスコ、生協が今年の三月から回収を始めました。今回は、いとく、ジャスコ、生協の回収担当者にはこれまでの回収状況を聞き、市環境衛生課長の菅原さんには市としての取り組みについてリポートしました。



長岐リポーター(左)

「パー一個つくれるそうですか、本当に大きな成果をあげていることがわかりました。回収を始めたころに比べると皆さんの意識も高まり、回収量はだんだん増加してきているそうです。回収したのは、市内の廃品回収業者に買い取られ、製紙会社に運ばれて再生されます。いとく、ジャスコとも、将来は回収活動がお店主体ではなく、消費者の皆さん自らの手で、定着していくことに期待していました。生協では、各店舗での回収のほかに、共同購入時にも回収しているのが他の二店とは少

し違っていました。集まったパックは組合員のボランティアグループの人たちが、かびのついたのを取り除いたり汚れをふき取ったりして、一枚一枚チェックしています。私はそれに参加してみました。とても手間のかかる作業でした。一人ひとり「きれいに洗ってから切り開き、よく乾かしたのを出す」を守れば、チェック作業はもっと効率よくなるのと思いました。市では、牛乳パックを資源ごみ(古新聞、古雑誌、鉄くず、

空びん等)として集まっています。資源ごみを子供会や町内会等の団体が回収した場合は、一キロにつき三円の奨励金を交付しているとのこと。牛乳パックの回収は、一時的なブームで終わらせず、市民全体の活動に盛り上げていくことがこれからの大きな課題であるといえます。その活動の一つのステップとして、他の資源ごみの回収を含め、自分たちのできるところから息長く取り組んでいきたいと思いました。

子育て応援します

リポーター 加藤 紀彦(大町)

先日、新聞で次の記事を見ました。「すこやか子育て支援事業」は、保育所、幼稚園の保育料、授業料を、保護者の所得などと関係なく第三子以降であれば一律無料とするシステムです。しかも、市では今年七月一日からスタートしたばかりの新しい事業とのこと。新米パパとしては大いに興味がありましたので、市役所で詳しくお話を伺いました。

保育施設・幼稚園に

入っている子が対象

一口に保育所などの保育施設といっても、市内には認可保育所、へき地保育所、児童館、乳

児保育園、無認可保育施設があることを知りました。認可保育所と乳児保育園では、子供の年齢や保護者の納める所得税・市民税などの額によって保育料が違っていました。へき地保育所は三歳未満と三歳以上の二通りの保育料になっていました。児童館は定額になっていました。すこやか子育て支援事業は、いずれの保育施設でも第三子以降の子であれば、保育料が支給または免除になりますとのことでした。

幼稚園では、授業料のほかに入園料や教材費、給食費、暖房費、施設設備費なども免除または補助になりますとのことでした。

申請した月から開始

この制度は、保育所等については福祉事務所、幼稚園については教育委員会学校教育課へ、保護者が申請した月から受けられます。申請の際、第三子以降の子であることを確認するため、戸籍謄本を添付しなければなりません。が、プライバシー問題(養子縁組など)にも関係してくるので、非常に難しい要素を含んでいますと担当の職員が話していました。

幼ない子供を持つ親やこれから親になる人にとっては、大変有り難い「すこやか子育て支援事業」。私をはじめとして、この事業が出生率アップや人口増加に貢献することを期待する人は多いと思います。



加藤リポーター(右)